

野生猿は去る？ サル近接警戒システム Ⅲ猿人善快 v 3Ⅲ 独立電源仕様

感知できるエリアの図化

無指向性アンテナを使用して600～1500mの範囲でサルの接近を検知しアラームを発することが出来ます（設置環境、使用アンテナ等条件により変化します。）

設置場所を起点とした受信可能エリアの地図をお作りなることをお奨めします。

どのあたりにサルが出没という判断に役立つこともさることながら、機器が正常に動作しているかどうかの判断にも役立ちます。

積雪時と、山に緑が茂っているときでは、電波の飛び方は変化します。

通常の動作確認

検知エリア図の端のあたりで正常に動作するかどうかの定期的な点検をお願いいたします（検知感度チェックが行えます）。

動作の異常に気付いたら

回転灯チェック

常に点灯したまま → 装置の内部電源「断」ほか故障

BOX外部チェック

BOX底面のランプ点灯（DC12Vの通電）の確認

ランプが消灯していればバッテリー側の点検をお願いします。

BOX内部チェック

チャージコントローラ／SHS-6のLED表示を確認

その他、考えられる障害（検知しない）

回転灯のランプ切れ（警報音は鳴る）

受信機の感度低下（雷サージ被害など）

その他、故障

誘導雷被害

※雷サージ被害対策

アンテナからの進入に対して必要とされる対応策は施しています。

が、絶対というわけにはいきません。

対象テレメトリ発信器の電池切れ

高機能化／ITの活用

制御エンジンOS-KⅢには、受信履歴を保存するロガー機能、ネットワーク回線に接続すれば利用可能な、Mail通知機能／ftpクライアント機能を有しています。

携帯電話網接続も携帯網接続ルーターとアンテナを別途用意することで対応できます。また無線LANも、無線LANユニットを用意すれば利用が可能です。

動作試験用の発信器は、常にお手元にご用意下さい。

この試験こそ装置信頼の証です。

装置の動作確認は、試験用の発信器を使って、定期的に行って下さい。

屋外に設置するものですから、雷ほか色々な原因から障害を受ける可能性があります。

適法テレメトリ発信器専用受信機を採用

受信機の設定は、何も必要ありません。

必要な設定はエンジン／OS-KⅢに行うものだけです。

BOX鍵番号／レシーバー本体製造番号

鍵番号	受信機製造番号	エンジン名称	設置場所	備考

適法テレメトリ発信器 LT-01

受信対象のテレメトリ発信器につきましては、シリアルNo.の管理をきちんと行って下さい。

シリアルNo.は、

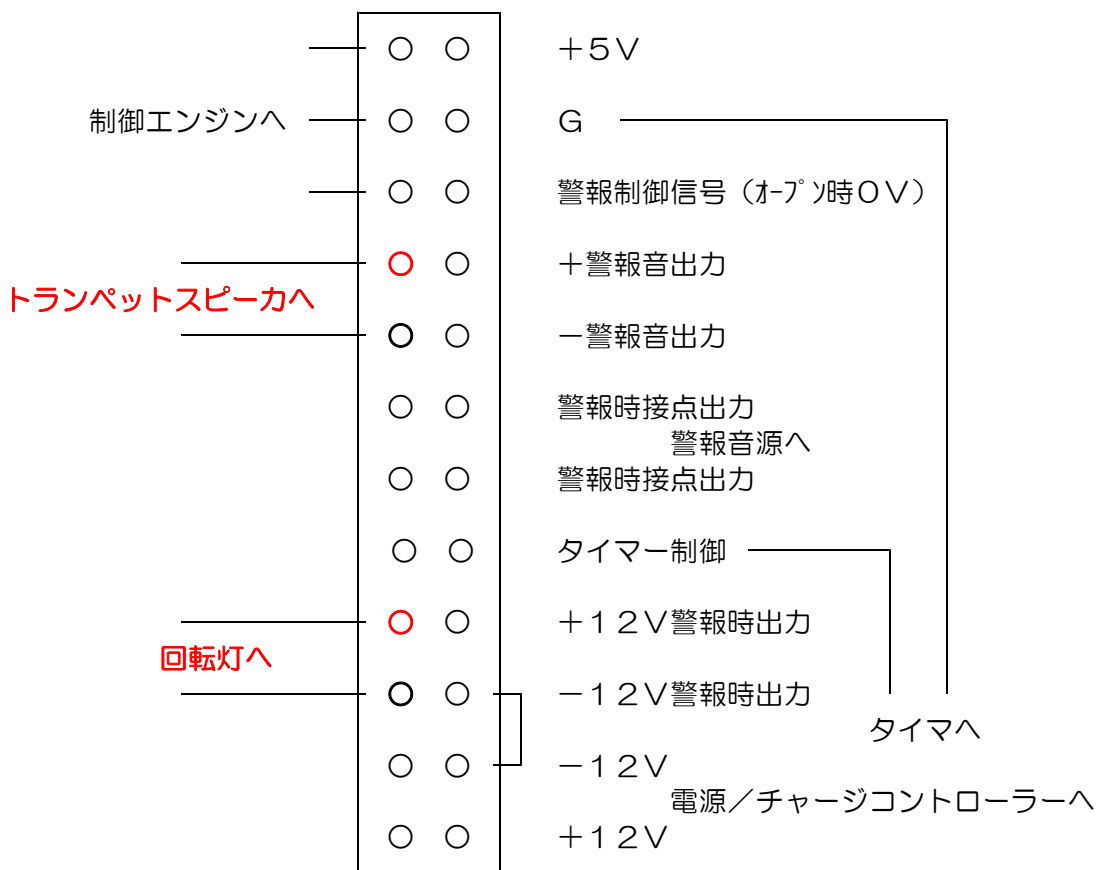
1. 周波数 (142.940~142.980MHz)
2. 動物種別 (01~15)
3. ID (0001~04096)

これらの情報を有しています。

管理の例

シリアルNo.	周波数CH	動物種別	ID	名称(名前)
11000154	1(94)	1(サル)	0154	サル姫

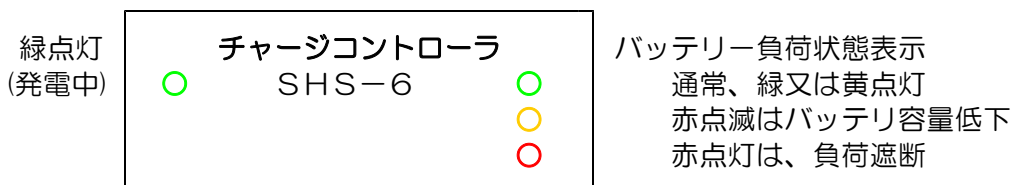
端子板結線図



下 赤字は、BOX外部への配線
φ3.5の圧着端子をご使用下さい。

直流ですので極性の扱いには十分ご注意下さい。
弱電/強電の世界の違いにより表現に違いがありますので、結線に際しましては、テストなどで確認いただくことをお奨めします。
【例】 赤黒の場合、赤がHOT (+) 側
白黒の場合、黒がHOT (+) 側
※上記の例で、黒と黒を結線すると逆接になりますので要注意！

電源系は、チャージコントローラのLED表示を確認いただければ様子が分かります。

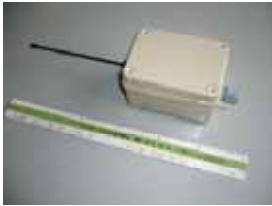


保護回路：短絡・過電流・逆接続・夜間逆流・高電圧・落雷 に有効
バッテリー電圧が11.5Vを割ると負荷を遮断 電圧復帰で遮断解除
トラブル発生時は、緑・黄・赤3色同時点灯
詳しくは、別紙チャージコントローラの説明書をご覧ください。

本体とは離れた場所でも警報を発することの出来る「警報ステーション（オプション）」の用意もあります。

本体の警報動作に連動し、同じ動作を行います。

見通しが良ければ、最大で2000m程度まで離れた場所でも機能します。



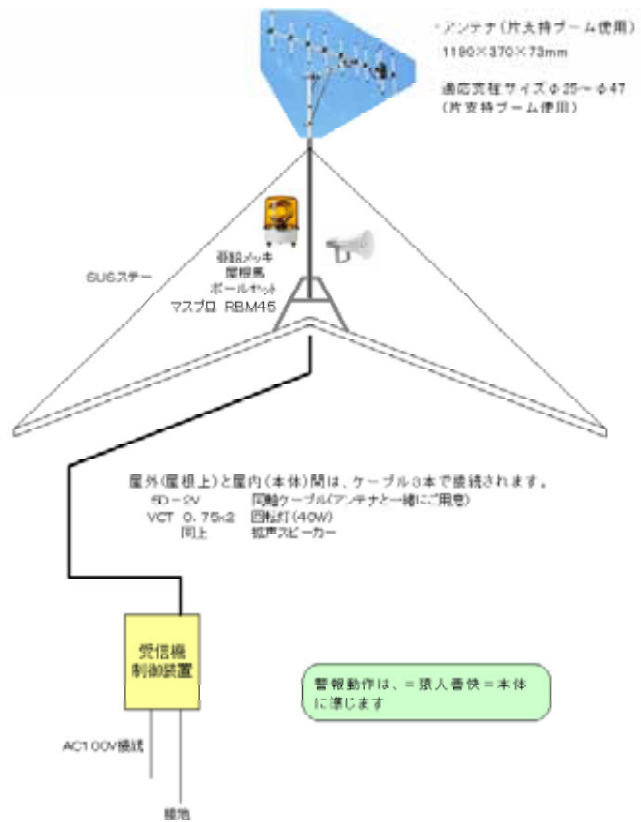
猿人善快設置箇所に取付ける送信機



警報ステーション本体の中身
回転灯・高音圧スピーカーは猿人善快と同じものを使用

遠隔警報装置 家屋屋根設置＝案＝

＝猿人善快＝設置場所より、見通し最大2000m位まで



誘導電などの影響を避けるためのアレスタ（アンテナ及び電源用）を内蔵しています。